

特集に当って

城川 俊一

教育の問題は、古くて新しい問題です。わが国において、今ほど教育の問題がいろいろな所で議論されている時はないでしょう。学校教育における受験競争の問題、職場での技術革新にともなう再教育の問題、またそれに関連した生涯教育の問題などみな未解決のままになっています。それらの問題の一部に対して国としては中教審が、いろいろな答申を出していますが、決定的な解決にはほど遠いのが実情のようです。したがってそれらの問題に対する多方面からの一層の努力が必要です。従来、教育の問題は、主として教育学がとり扱ってきました。しかし、この分野でもORがはたせる役割があるのではないのでしょうか。今までその努力が不足していた主な理由は、教育の問題とOR的アプローチとの相性が必ずしも良くないと思われていたためだったようです。しかし、人的・金銭的な面を考慮した効率的な教育にマネジメントORのアプローチが適用できる面も多々あることもまた事実です。今回“教育とOR”を特集のテーマとして選んだ理由もそこにあります。

特集の各論文は、教育の問題のもつ多面性を反映して広範囲におよんでいます。瀬沼克彰氏には、わが国の行政・民間企業における生涯教育の理念、その実施のための施設などハードな面と指導者、教材などのソフトな面の現状を紹介していただいた。浅居喜代治氏には、氏が客員教授をなさっている放送大学におけるシステム教育を氏の体験をまじえて紹介していただいた。放送を通じたOR的教育方法としてお読みいただければと思

います。槻橋正見氏には、今日のCAIブームを反映して、金沢工大におけるCAI教育の理念と現状を述べていただいた。特に、CAI利用学生に対する意識調査は、今後のCAI教育にとって大変参考になるものと思われます。鈴木義一郎氏には、最近のコンピュータグラフィックスの広範な利用を考慮して、特に統計教育における効果的な図形の使用をいくつかの例でもって示していただいた。また荒木睦彦氏には、建築技術が、わが国でいかに組織的に伝承・発展してきたかを、職人の教育・訓練の視点から解説していただいた。両氏の論文は、いわゆる有効な教育方法に関するものとして分類できるでしょう。岡太彬訓氏には、特に大学生を被験者にした、仕事の価値感についての調査からいくつかの類型を割り出し、進路指導上の資料を提供していただいた。戸塚竜登氏には、小学校の主として理科教育に「Logo」を使ったユニークな教育を紹介していただいた。初等教育におけるOR的あるいは科学的教育の1つのあり方としてお読みいただければと思います。椎塚久雄氏は、架空の私立大学を想定して、その大学が質的に発展してゆくための要因をシステムダイナミックモデルで解明しています。大学運営に関する1つのOR的アプローチです。

これらの論文から、読者は、教育の分野におけるシステムチックなアプローチの可能性を読みとることができるでしょう。読者には、これらの中からよいテーマを見つけて挑戦していただきたいと思います。